

2022年6月17日九度山トロッコ道で観察した植物

作・岡田弘

ユキノシタ（雪の下）ユキノシタ科ユキノシタ属 *花期5～7月

別名＝虎耳草（こじそう）*名前の由来＝諸説ある、「雪が積もってもその下に緑の葉が見える」「雪の様に白い花の下に緑の葉を広げる」等、湿った半日陰の場所に生育、冬でも葉が緑の常緑、五弁の花は下の2枚は白くて長い、上側の3枚は短く白地に赤い斑紋があり、付け根は黄色い、別名の虎耳草は「葉が虎の耳に似ているから」生薬での呼び方、薬効・葉にはポリフェノールの一つであるベルゲニンを多く含み、解毒作用がある、絞った汁を中耳炎、耳だれ、に塗って、乾燥させて煎じて飲み、むくみ解消、又、アルブチンと言う成分を含んでおり、メラニンの合成を阻害するので美白化粧品にはユキノシタのエキスが配合されている。**食べても**、天ぷら、ハーブティで楽しめる。

*花言葉＝深い愛情・愛情・恋心・博愛



フユイチゴ（冬苺）バラ科キイチゴ属 *花期＝7～9月

名前の由来＝冬に実をつける苺。では、イチゴと何故呼ぶのか？語源ははっきりしません、奈良時代の日本書紀に「いちびこ」と言う名で記されているので、これが転じて「いちご」になったのでは？苺と言う漢字は？くさかんむりに母と言う文字です、苺は一つの株に次々と沢山の実を付ける、又、ランナーを延ばして次々と株を増やすので、「お母さん」すなわち「母」と言う文字が使われた。低山の林縁や林内に蔓性の茎を伸ばして地を這い、葉は密に毛を付けている、食べて美味しい、ジャムに***花言葉＝真心の愛・未来の予感・尊敬と愛情**



11月頃のフユイチゴの実

ウマノミツバ（馬之三葉）セリ科ウマノミツバ属 *花期＝7～9月

名前の由来＝同じ仲間の「ミツバ」は食用になるが、本種は食べられないので、馬に食べさせる程度の草と言う意味。日本での分布、北海道～本州、山地の林縁や林内に生える。葉は3裂し側葉は更に2裂する。花は集散花序で白い小さな両性花と雄花を咲かせる、雄花は子房が無いので小さい。葉に匂い無い、種は鉤型になり衣服等につく、ひつつきむし、***花言葉＝ない**



ウマノアシガタ（馬之足形）キンポウゲ科 + 花期＝4～5月

名前の由来＝葉の形状が馬の足形に似ているから命名、と言われるがあまり納得できない日当たりが良く乾燥した場所を好み生えているので道端などにも見られる。分布は北海道～沖縄まで日本全土、晩春から初夏にかけて咲く黄色のピカピカした人工的な美しさである、葉は3～5裂し、それぞれ先端は更に2～3裂する、粗い鋸歯がある、葉の両面は毛で覆われ茎にも上を向いた白毛が密生、葉や茎にはプロトアネモニンという**有毒成分**が含まれている、人により葉や茎に触れるだけでかぶれることがある、米粒と練り合わせてリュウマチ関節に塗っていた。誤食すると、嘔吐、下痢腹痛、胃腸炎を引き起こす、***花言葉＝子供らしさ・栄誉** 誕生花1/20, 1/25, 2/18, 3/2, 5/2



ヤワゲフウロ（柔毛風露）フウロソウ科フウロソウ属 *花期＝4～6月

ヨーロッパ原産の帰化植物、1976年北海道室蘭市で発見、果樹園の肥料に混入してきて日本全国に分布、名前の由来＝柔らかい軟毛が全体に生えているのでヤワゲ、フウロは江戸時代に植木屋がイブキフウロを風露と言う名で売っていたのと言う、判然としない。葉は掌状で切れ込みが5～9裂していて葉柄がある。**花言葉＝無い**。



九度山へのトロッコ道は山側からの湧水のため湿気が多い所が多く、シダ類が多く見られたが、同定が難しい種類も多く立ち止まって調べる余裕がなく、見過ごした、その中で過去に紹介した種類を含めて記載しました。①クジャクシダ②ハウライシダ③ミツデシダ④ホラシノブ⑤イヌシダ

